

# 「チャレンジ! おおいた国体」まで30日のカウントダウンの中 ウエイトリフティング競技リハーサル大会を開催

「チャレンジ! おおいた国体」の開催まで1年を切って、11月15日(木)から18日(日)にかけて、アストくにさきで、国体ウエイトリフティング競技のリハーサル大会となる「内閣総理大臣杯第44回全日本社会人ウエイトリフティング選手権大会」と「チャレンジ! おおいた国体記念杯女子ウエイトリフティング競技会」が行われました。

大会には、社会人選手権(8階級)に126名、女子競技会(7階級)に79名の選手がエントリーし、スナッチとC&ジャークのトータルの重量で、社会人・女子(一般の部・高校の部)それぞれのナンバー1の座を競いました。社会人選手権では、チームごとの参加選手の合計得点で競う団体の部も行われ、競技会場は選手・関係者や応援の皆さんの

熱気に包まれていました。



大分県選手は、「ぶんごめじろん」チームを組んで、105kg級の武田雄大選手(国東農工高校教員)と69kg級の岩男太選手(陸上自衛隊別府駐屯地)が出

場し、武田選手が3位(スナッチ、C&ジャーク共に3位)、岩男選手が9位(スナッチ6位、C&ジャーク10位)の成績を収めました。

社会人選手権の団体の部は、自衛隊体育学校A(埼玉)が内閣総理大臣杯を獲得、文部科学大臣賞(最優秀選手)には鈴木和美選手(自衛隊体育学校A)が選ばれました。

期間中、全国各地から大勢の選手・役員など大会関係者が国東市を訪れ、国東市の文化や自然に触れ、市民の皆さんとの交流も行われました。大勢のボランティアの皆さんや関係者の力が結集した3日間にわたるリハーサル大会は、好天にも恵まれ、チャレンジ! おおいた国体に向けての大きなステップとして盛会のうち幕を閉じました。



▲社会人105kg級の表彰式の様子



▲武田雄大選手のC&ジャークの試技



▲岩男太選手のスナッチの試技

## 11月15日(木) 【審判・監督会議、開会式】

午後4時からの監督・審判会議に続き、午後6時から、選手・監督・大会役員など約150名が出席して、開会式が行われました。

開催地を代表して野田侃生市長が「来年の本大会に向け、友情と親交を深め、思い出に残る大会としてください。」と歓迎のことばを述べた後、武田雄大選手が、「応援していただいている皆さんに感謝し、来年のチャレンジ! おおいた国体に向けてのステップとなるように、正々堂々競技します。」と選手宣誓して、16日からの競技会での健闘を誓いました。



▲開会式で歓迎のことばを述べる野田市長